

再校

江戸砂子

四谷 赤坂
青山 澁谷

四下



補

○佐目河橋 紀陽云御鉾の北坂のト小橋のつらひを道の若を
 牛込行元寺よりあるあり強馬あり 任職の傍はるより
 曼供塚へかよひしとありときいやすきものるははより落
 て死にたりしれりさある橋といひしといつ頃さありけしと
 行元寺の旧記あり曼供塚六郷家の中きにあり行元寺
 代々の碑今もあり又一説むくは河大のてさく川はき
 たりは所へ大なる較ありくく信田くき説し

右前坂の流よりししさめるのりも移るの流あり進きあり
 流ありそのとれの流のまづもなるなりといひ傳ふ一説より
 はりより谷をて四谷麴町をすく四方なき所のありあり
 少く雨後は必出水深く川よりしし常ハ砂地を水なり雨
 多ればりの橋より少く雨多橋よりてありあり同一にあり
 といひありしとては後を承りし此も佐目河といひあり
 流あり此も武家の記録は寛永年中佐目河村あり

屋敷拜所ありとて代目村の橋よりさき川も終るや
ともほろこの水橋川より流るも源あり

○牛頭天王

四谷 別當 稻荷山宝藏院

補

神田明神祇々 芝崎大隅守 持

洛東祇園同社 日本紀纂錄曰山城國愛宕郡祇園社

則進雄神之化迹凡有三座一牛頭天王又名曰

武善天神 諸社根元記 中間牛頭天王素戔嗚尊

垂跡東間八王子五男三女西間稻田姫本御前

祇園縁起 天竺北有國名九相其國有園名吉祥其

園中有城々中有王名牛頭天王又名武善天神暨

娑竭羅龍王女為后生八王子其眷屬八百四千六

百五十四神 神社考 素戔嗚唐土牛頭天王又武善天

神より天竺より金毘羅神又摩訶羅神より

△旅所 四谷石切町 毎年六月は所は假屋とま

六月十八日より同廿一日まで近坐 祭礼六月十八日 隔年

△稻荷社 堺内ありは社より神符等甚多演あり

一書曰四谷郷の藪中じいより稲荷の一社ありは年彼邊

おひりく疫病けやぬ土人共清く神田明神の社内法堂

より牛頭天王と稲荷の祀いひ祈法り夢ひは病難疾

用る人して芝崎氏法り勸法り小祠と建いふは彼邊

日よ般茶花より稲荷天王ともいふ所の産土神と成ぬ

とありとて稲荷の當所の祀とて天王は芝崎氏の持

○忍原 天王のやらの西北

補

前板曰天王の社の辺に所忍原の流中きあり

ともよ大よ流れり天王社地より西五六町と流り忍原

よりつり天王の武州界の城主成田下総守氏長あり

一々北條家より御入國の後松平下野守忠吉君より忍

乃城と進り慶長五子尾州へ得替せたり

補

そのあと番城より横山坂を経て力五人同心十人と
らんと勤者三十五年及び寛永十一年松平伊豆守信綱
より忠誠と云々一徳り城番の面々江戸より此所は宅地と
下され居位は大番町信法町控太原へ行く廣原
町少人古き土人の忍原と云ひありしと云

○忍町 二町あり傳る町の況し忍廻同心の地と云他廻の地
○夫婦坂 傳る向通昔横橋と云りも好位の家ありしと云

○千日谷 天王社地の西

補

紀州御館のいさめり橋のあ後といふ永井信法も尚政の弟履
より判官にて浄土宗の乃心者となりて坂下と云と終ひ
志仏修りしと云千日不退轉の誓ひ結願のとき千日回
向の供養とつとむ江戸まで千日回向の始なりしと云
男女群集せしより俗に千日谷と云ふ永井式部少輔は度々
に立一寺し一行院とい彼寺は式部少輔の本像も有り

補

○信法町 千日谷のあ永井信法もあやきあれと云

○左門町 ○右京町 四谷本通の南横町 寛永の頃河女
中京のあはし河を屋敷と云ふゆゑと云りしと云

補

○右馬町 その地をいふを過右之助といふ人ありしと云
しと云く人と殺害し刑戮せられしと云その人死す時ありし

補

○大番町 四谷通の南之明暦の頃まで深誓の地と云ふ
人家あり明暦三年大火の後一番町より本村三宅を後お忍
りりては地と下る江戸絵圖云和板の一分十間割の一枚陰
間六六大番町の所は本村三宅を二人八町の所は記しと云り本村
氏引移し後も毎夜をききく狼来りしと云そのうち大
内番方殿宅地とお忍りりり大番町と唱ふと云

補

○新本坂町 北伴賢所松平源次郎屋中しき前通

補

○車力門前 同中しきく通と云

補 補 補 補 補 補 補 補 補 補 補 補

○川豆店 四谷通筋筋乃乃とりけり
 ○仲友町 紀陽の河鎮の西之服部仲友町きりり加と云
 ○茶灌坂 さめろ橋町より仲友町へよる甚けりき坂也
 ○洗炮坂 仲友町より支り河は色いづれの組也洗炮
 けい場わろくし
 ○寺町 南小 ○伊賀町 南小 四谷通の左右へ通じ
 ○稲荷 秋葉 西社 禪宗 福壽院 伊人丁
 ○西念寺 横町 天王様丁 石切様丁 法蓮寺様丁 忠系様丁
 左の丁 大丁様丁 以て四谷通南の丁
 ○大様丁 飯釜とと丁 新本様丁 車力とと丁 船板とと丁
 ひや様丁 津屋ち様丁 湯和とと丁 徳昌寺とと丁
 以て四谷通南の丁
 ○皂角矣場 小伊賀町のうち
 ○傳馬町 四谷大木戸の通に天州陳町傳馬町勤一内蔵

補 補 補 補 補 補 補 補 補 補 補 補

大傳馬町馬に勤解由は河ととれり代と身並を配
 赤坂と傳馬町は同村に吉沢と村よりとてゆふ傳
 馬町の玉川万平上水堀りりの以て河敷日堀實り土とて
 町並高貴なりゆふ永く水汲とゆふれ其上一町大木
 井六つをゆふれより今も建て井ありその中伊賀前
 新居敷 四谷大木戸の左より南へ内蔵家申きり
 の方にありは中よ大木小流りくと船少なきなり
 依橋小路 伊賀前筋の西七十年のゆふ依橋氏
 二系町よりは河よりととれ一族五人同姓より
 大木戸 大木戸より
 高井土中地街乃
 一説 霞の園 又も 旭の園 出所詳なり
 此地むら大右谷より至る深林の一番乃と御入園の頃

此所と紅毛の所より七八十里ありて江戸より結する所出
計所の本穀送状よりけりて通る所今も其地結する所
鞆よりきと通る所江戸宿又ハ行向合本のも形と出て通る
これ遠風と又此所の番所町内の持りしとも突捧り了脚
涙赤と飾り江府よりあて武家番所の外きと一はよ浪る
ちい位亦付古園ありし地ありと古き土人のいひ傳へるは
庭園といふもされりし地ありと説くけりも此地の南北地低く
谷ありし所を新築しりしすも園のうらうらの後もけりを
もく此所と一も変りし

補

○梅川 大木戸の西石橋がう前には水源ハ内宿家の倉
後より出ていきとと市谷本村へ出細中まの中と通屋陽云
市館のトへつるありと梅川をいひ古きとありし
○内宿宿 ちい位亦付古園ありし地ありと古き土人のいひ傳へるは
江戸よりきと通る所江戸宿又ハ行向合本のも形と出て通る
これ遠風と又此所の番所町内の持りしとも突捧り了脚
涙赤と飾り江府よりあて武家番所の外きと一はよ浪る
ちい位亦付古園ありし地ありと古き土人のいひ傳へるは
庭園といふもされりし地ありと説くけりも此地の南北地低く
谷ありし所を新築しりしすも園のうらうらの後もけりを
もく此所と一も変りし

補

唱少ありしは享保のけりありて新築を破壊せり
○内宿新宿 甲州街乃馬込 一 日比谷より二里
前坂のありし享保のけりありと新築と明和九年二
月ありし御免ありし一宿再興に井土へ二里のて懸て
○御言葉の松 同所内宿大和寺後中まきの内より
寛永の頃御免ありし野の多即御免美の上意ありし松
當所ハ寛文の頃内宿家祥伝の地とてのいハ南北十町と
東西八九町のやまきりし
○千駄ヶ谷 じりハ一向の茅野より一日は千駄の藪の出
所とて今ハ武家やまき寺地とて
○八幡宮 千駄ヶ谷 別當高雲山瑞園寺 曹洞 お州
本地御免院 一丈八分 真心の作 法泉さま
此本より洗谷金王丸寺護の像より 林伝御朱印八石八斗
△洗掛松 門前ハ大木の松あり寛永のころ新築野の多即御

多々の松は松よかり〜 祭日九月廿七日

高社千鉢の産土神よて氏子多〜 境内廣く是地

○観音 同所 観谷山聖輪寺 其言 和州長谷末

岡山行基菩薩 本寺如言持

眼玉の観多〜 賊ありてかその眼黄令〜
ぬき出しぬとの糸とらし〜 玉眼と持〜 かのれと害〜 死

江府より千余歳の号場は浅州寺〜 け寺は〜

○遊女の松 同所 高羅山寂光寺 天台 上野末

始は松の松と云〜 此所は奥州街〜 一向の原〜

と〜 其申は松の松あり〜 松の松は松の松〜 松

特の時時〜 御杖の松〜 御杖の松〜

の上は松の身りり〜 御杖の松〜 御杖の松〜

御杖の松〜 御杖の松〜 御杖の松〜

御杖の松〜 御杖の松〜 御杖の松〜

中世々自今テ改て遊女の松と云〜 釣命〜

くら所大切〜 一の松は〜 御杖の松〜

千坪上〜 寂光寺の松の外は〜 御杖の松〜

御杖の松〜 御杖の松〜 御杖の松〜

台宗開基自證院大傍は旧雄師魚帯

(一) 吾妻堤 同所 街乃の堤の余波〜

○元燈硝子 同所 今ハ橋を架の西はあり

○太神宮 同所 神主小川齋宮

万治のころもやりぬありて〜 此所は〜

〜 太神宮の松は〜 八幡の地也〜

そのころ又も所は〜

○花園 同所 別當三光院 寺屋末内

○旗ヶ谷 同所 寺屋末内

○旗ヶ谷 同所 寺屋末内

寺屋末内

補

不動 備谷 真言 莊嚴寺 漢心寺
近年あつても信仰の人おかく多し

補

熊野十三社権現 本郷村曹洞 成願寺持

元村老の持して古き社也昔年やとあはれおとすは多し

高井土 王子街乃て継の宿也 江戸より三里半

牟礼居野 井土のさき 夫粟瓜は所名也

追分 内宿のまき井土と中せへの道也

鳴子 追分のる 瓜は多しり多し出る

策の井 田 平原に亭及中やまきの池ありし

文和の以祈禱の節これよる水あり 昔よりめいしは寺ありし
伊弉諾の泥とありせしりしは名ありし

大田川 祈宿のうれと 祈きこらるる

大上谷 又狼谷とも 祈宿のまき種多非人木のありし

牛 穴 狼谷の内 笹塚 同右の内

○汐干の里 又潮踏里 大木戸のまきより其所よりありし

○太遠つ樺 四谷のま 柏木村 延正寺 一茶師老の前あり

花に大いなりしと云べく白ひすれはたかく尚香のまきありし
似しり他の花よりハハク 或人の云ははけむもかりし

色香よくしゆりゆりのははらり人老敬す近きありし武田
太遠つ浪人すれは花と云ふは老まき 幹木の

枝枯しりた雲のまきをらしきと云ふ枝とつづ継木のよもみ
まは枝葉ささく花もじりの名もとせり太遠つ継木の

さうりしれしつらう太遠つ探しよさうりしり所ハ柏木村
かれを源氏の柏木太遠つちりてくるまき本と云ふなり

○玉川上水 源ハ甲州堰より流出く川末六郷へ海羽田村より
海へ入る多摩川の川よりゆへ多摩川と云ふと後玉川と改め

兼藤平年中始て江戸市城下上水は引せらる玉川水の所と江
府より十三里上羽村といふ所よりワれて四谷角のまき

補

二つより入一口に淀橋の方へ落りし神田上水井氏の助水とあり
小石川へ出ると一涿四谷沖門外大柵より御廓内へ入り

○淀橋 けりて宿し中野の間

又面影の塔 澤又氏の橋 寄り橋ともいふ

寛永の頃中野の節淀橋と改じへり上意らりし
びり多磨那正社の内正親寺の某師堂の棟札に銘曰長者
日連書くはは漆千孟朱千孟黄令千兩錢十六万貫銘日
さす夕日ゆやく老木の下にありしゆと埋し附下男
肩せてけけしとけりけり下男の後よぬすむりわあらん
ととこしを教しけりしとこの下男のこゝり人ん
ゆり可と見えらるる今澤又氏の橋といふと里人のお借し
○中野 淀橋の西より多磨那と武蔵の中中央より

○角筈の里 内友端のすまみ

補

○中野の七塚 けりしは塚七ツあり何の塚なるや志小すくく
すあは古きることし二二可ハとの可也きりり程考へ

○中野の塔 宝仙寺といふ言寺じり大寺なり今ハ
境内の外に成てあり寺一ハ宝仙寺の可也

補

三重塔 本寺大日との并古佛あり再興中野長者夫婦の本像
も塔中あり門内は塔と寺もゆ芽登りゆの

補

○桃園 中野のきり方二二里の間田畑畝のりよ
桃と梅より花のさるはえりし三里かとい色すり希有
の眺命と近まふと江江なり見物の格客おほ

○代々本野 中野のきり宇陀地といふりりりらひきき
野色遠くつたり遊観の佳境むりゆの

○鞍掛松 代々本の内より永保二年五月涼義家崩た羽州

武衛征伐の時当所は陣せり父我我入道死去と告るる

七日代々本は後若りり芦毛の馬といはれつりき枝り後

再入江府赤巻へ

よか持仰けしき一七日執りあり奇異の事とありておののま
 とく七口より水漏れ出給ふとて、同の事曰たてり本は清遠寺
 里法より寒き水のありて川おのこ此池のやけりよ午睦せし
 他ぬの音志きりたりとて同とまきり又また池中より暖其つ
 おくくたりしとわたりて吾人へするけしきとて、らちり
 そえんらちり強きとてひらつての事とある事ありく
 氣絶すの強きとて此の池より七日やてとて死てく
 ひらびしから中野宝泉寺よりいりされたるの事あり

○天台宗

○鎮護山圓融寺 自證院 上野末 寺領二百石 北寺町

尾州靈臺院殿の御母堂中善提所へ寺从二百五十石の事
 附 前板紀州中善提所とあるは誤也

寺中 同來院 妙光院 真珠院
 △蜘蛛の井 境内にあり

紫一本 山際穴ありその穴より漏れあし毒ありて蛇若死す
 去の穴じし上蛇の巢なりとて後邊綱三田にあり土物と
 ちとてへしとて穴の所なりとあり △此穴の所へ今山王の社乃
 所の山段に此の穴ありしやとて多かりけれんといと埋あり
 本寺の例は月水の井とありと蛇の井とあり古物伝
 うりばいなるの事ありし 為寺とて日蓮宗とて日順上
 人開基奉理山自證寺とてありし 自證院殿の所善
 提所へ下治のより板ありて天台宗とてわたり

○朝日某師 光明山真福寺 上野末 小寺丁

○妙光山延壽院 上野末 小寺丁 ○田通山安善寺 自證院 小寺丁

○医王山安永寺 日 南寺丁 ○地涌院 南寺丁 日

○禪宗

○笹寺 四谷山長善寺 相州は泉も末 大木戸新

当寺と笹寺といふ奥永の頃津野の内立うせりつる
 ちそのはきき安んじ長き所といふ所敷の申
 にくい笹池色ふりりしく笹寺といふ一と一と
 雄峰山全勝寺 先付 紫泉ちあつや俗杉大つものさしり 信子
 泰翁山全長寺 全獲さ、ち 〇 室林山頼公寺 治昌さ、ち 〇
 全徳寺 〇 幡龍山永心寺 〇
 領王山竜泉寺 〇 南寺 〇 洞雲寺 〇
 法輪山勝興寺 寺中 清岩院 谷田院 〇
 臥雲山龍昌寺 寺中 瑞溪山祥山寺 大徳ち 〇
 雲龍山松巖寺 妙心ち、多き 〇 以翁山弁昌寺 上州 法花院、千日谷
 日照山宗福寺 信興ち、 〇 放光山法潭寺 美架 〇
 梅枝山陽光寺 上州 〇 龍洞 〇 高寺 〇

補

成願寺

中々

〇 宝厳山龍谷寺 上州 〇

日

〇 大寛山田應寺

黄葉仙 山州海住寺未

日

〇 閑山鉄牛禪師

中興別峰和尚

〇 議本山天龍寺

取捨ち中大悲院未 閑山春屋和尚

進分

△ 一里塚

当ちかへの四よりち板

ち井土りの一里

補

当寺とと遠州天竺川のさより江府へうりし半也傳る
 了坂下のさよりわりの所と元天竺ち前とりくとの後又面
 可へうはる

〇 浄土宗

〇 専称山西念寺 西福ちまき子 〇 永固山一行院 浄寺、 千日谷

寺中 長雨院 住持あり

〇 栄孤山香蓮寺 灵岩、 日

〇 白岩山崇源寺 知恩、 日

〇 涼雲山西念寺 坊上、 ち丁

〇 増光山淨蓮寺 日 小寺丁

〇 明了山正受寺 日 日

○深谷山長安寺 曰

○十劫山成寛寺 曰

○五劫山弁才院法藏寺

増上寺末

南ち丁

当寺ハ三州四谷法藏寺のくろく天正十九年同基松平兵庫
氏やまの由より同山來蓮社大誓永蓮和尚

当寺境内表通町よりさあ格まで寛永年中所用地
なる位持の傍に化と称せりよりしてよそと合し及よき
川宇基松平氏再興よりより建立とす

○霞開山大宗寺

増上寺末

内夜宿

○創開山念慈心學玄 仙諸開山聖光上人

六地藏 二番目 沙門正元坊建立

補

△祇陀 位牌堂の本より鎌倉御工の作 亦藤原氏身二親善
提のめと犯ありは亦藤原代に藤原まつとく亦友祥門
降山々高し 当寺春してもと内夜宿や一きの内
前板より寺もとと殿の関より死を審に内夜宿は

補

一々屋敷群衆ハ寛永のち中野の所故の所供の
ハハ大和守重頼は比と事とされよき街の右より
あり房と寺別して地とすは寺院より入り
てより大宗寺より号して前板は開山の号より入り
てありてありて記よりやありといへる
いづれもはけり遠きありての寺の
橋とすも鹿村といふ所ありは開の
宗祇の寺前方面抄は西の方よりして
の古川流るあり其地形符合せり

○真言宗

○夕干親音

錦教山海鯉寺真成院

宝仙寺末南

開山清心法印

此なる越後小村上我宿の寺佛一尺さりの石乃上り
石像の如く観念といはる潮田くさきまりて

至我清嘉祥村上無沙入道道赤祓、奥州本保より、大坂御陣より、そのころ江戸に瑞雲寺、兩山寺は法印八新の所より、中人浪人のうち高寺は萬後ハ水戸村家へ出勤するのころは本寺より高寺よりしむを及の善佛と

○十股山慈深院 護持元末ありて、全剛山顯性寺 宝永よりありて

○雲光山文殊院 曰 曰 ○東向山蓮乘院 振生院、曰

○和光院 智積院、四谷 ○阿詳山東福院 護持元、曰

○多聞院 護持元、角善 ○慈眼寺 中野

○莊嚴寺 曰 幡布

○丸香山勝國寺 御朱印十二石 世田谷

○光林山西福寺 茶師 行基作 曰赤提

○明王山高勸院室仙寺 寺産廿二石六斗余 中野

○真言古義の古跡とむし、大寺はり、大氷の噴り及び

補 補 補 補 補 補

補

の専ら破らぬもの、開基の年傳も、其の良系傳の作不致きあり、故より山と名、又迎き、中野の法とて、之きの法あり、けり、高寺の法あり、

右より、高寺は、今九所の前あり、一人の地、その間、島村より、高寺の内、か、ち、高寺の法あり、後念之代、お軍のころも、武蔵小出、高寺の法あり、

○八幡宮 御朱印三十石 別當 大宮寺 中野の元、大文

源、其の相、元任と、討て、高寺の、高寺の法あり、法比摩、く、古、松、老、松、故、系、と、て、高寺より、江南、迫、立、寺、の、古、跡、と、

○法花宗

○妙典山戒行寺 才近末 南三町

寺中 田立院 高所坊 高所坊 高所坊

へは所の坂とく、ひまわり、ド、坂とく、

補

爲 寺實永のちるも、成行房として、魏所二丁目沖城には、
つりやち歌目竹柄の小房りりし寺に、建立せんと、
隣家より大番文重行し、赤白あり、志氣と流るれば、
氏より楢那になりてカ、合せ終り、一寺より、
つりやち、
分身鬼子母神 寺中急立院のわり 定期の作

補

四谷北伊賀町永田安節し、小醫師所持せり、
近きの山行し、彼より、
子母神の事係と、
箱と、
よび、
氏も、
に、

後、
い、
桐、
ま、
け、
若、
山、
末、
山、
是、
所、
る、
せん、
後、

長明山法云寺 小湊 〇法真山理性寺 大本戸

天明山本運寺 〇妙福寺 四谷

宝勝山円通寺 〇正妙山法恩寺 妙福寺、南ち丁

平等山本性寺 〇長周山栄林寺 〇微妙山真性寺 他二、今井

〇青量山本源寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇稻荷山妙行寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇妙性山三三寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

補

夜明鬼子母神 日法上人の作 文永元年十月廿日蓮上人
四十三歳のとき母を拜せりといふ小湊の御里に於て母投のわきり松死

補

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇高見山日宗寺 〇高見山日宗寺 〇西應寺 東 南ち丁

〇一向宗

〇法雲寺 東 〇西應寺 東 南ち丁

〇真英寺 〇等流寺 〇源慶寺 〇正應寺 〇吸正寺

〇真英寺 〇等流寺 〇源慶寺 〇正應寺 〇吸正寺

〇真英寺 〇等流寺 〇源慶寺 〇正應寺 〇吸正寺

〇真英寺 〇等流寺 〇源慶寺 〇正應寺 〇吸正寺

〇真英寺 〇等流寺 〇源慶寺 〇正應寺 〇吸正寺

〇真英寺 〇等流寺 〇源慶寺 〇正應寺 〇吸正寺

十四 赤坂 今井 青山 渋谷 世田谷 長者丸

○赤坂庄 風王記 荏原郡あり

公穀二百六十九束三毛田 假粟二百二十三丸 貢麥稗又貢霍鷺

△赤坂今ハ荏原郡あり

○赤坂川 川の所よりいふも赤坂川

補 前坂右の... 彼河の水は所より出て赤坂川

といひ... 川へ流るりて一書よりいふ

○氷川社 小六の宮と云 聖護院派 別當大乗院

風土記 赤坂庄小六天神 或古呂故 圭田三十五束三毛田

天武天皇三年甲戌十一月始行神礼有神也巫戸所祭

大己貴与少彦名園韓神也号小六者以古呂故岡名也

氷川といふや乃高玉多し武彦玉の一宮なり

所には勸諸よりいふ足立郡上宮氷川社といふも乃一

の宮とて孝昭天皇三年戊辰祭所素戔嗚大己貴寄稻

田比咩三在りりと風土記に又えいり足立郡熊川の郷

とあり此神出雲玉敷の川とて大蛇と退治

よんで此三神と氷川と雖も熊川氷川同訓なり

先書云古呂故園の氷川の社立郡の氷川と勸

諸とて記せり又云入間郡氷川の社天曆元年の奉剣

とあり当所ハ入間郡とありすいつこの所の氷川と混令

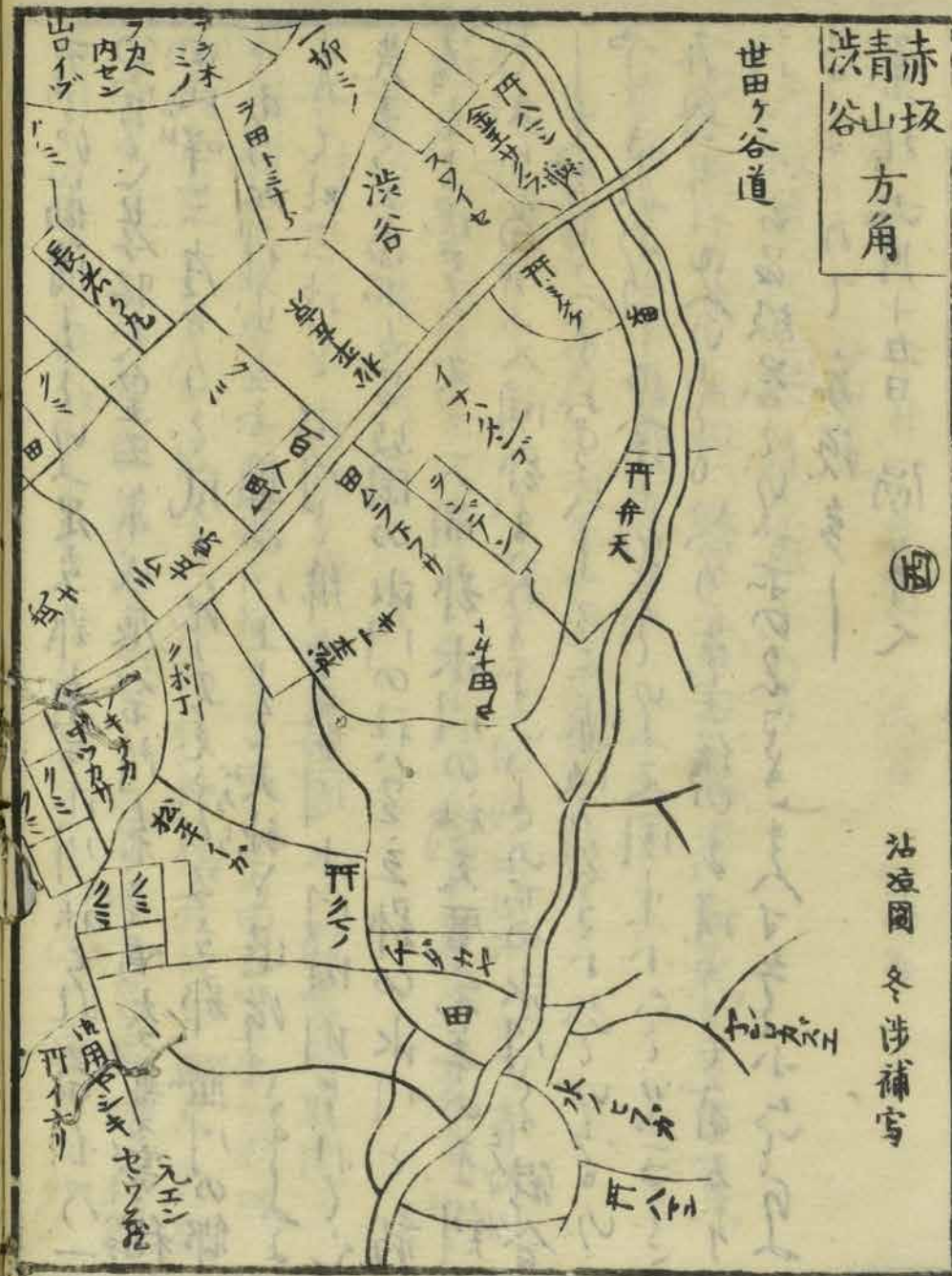
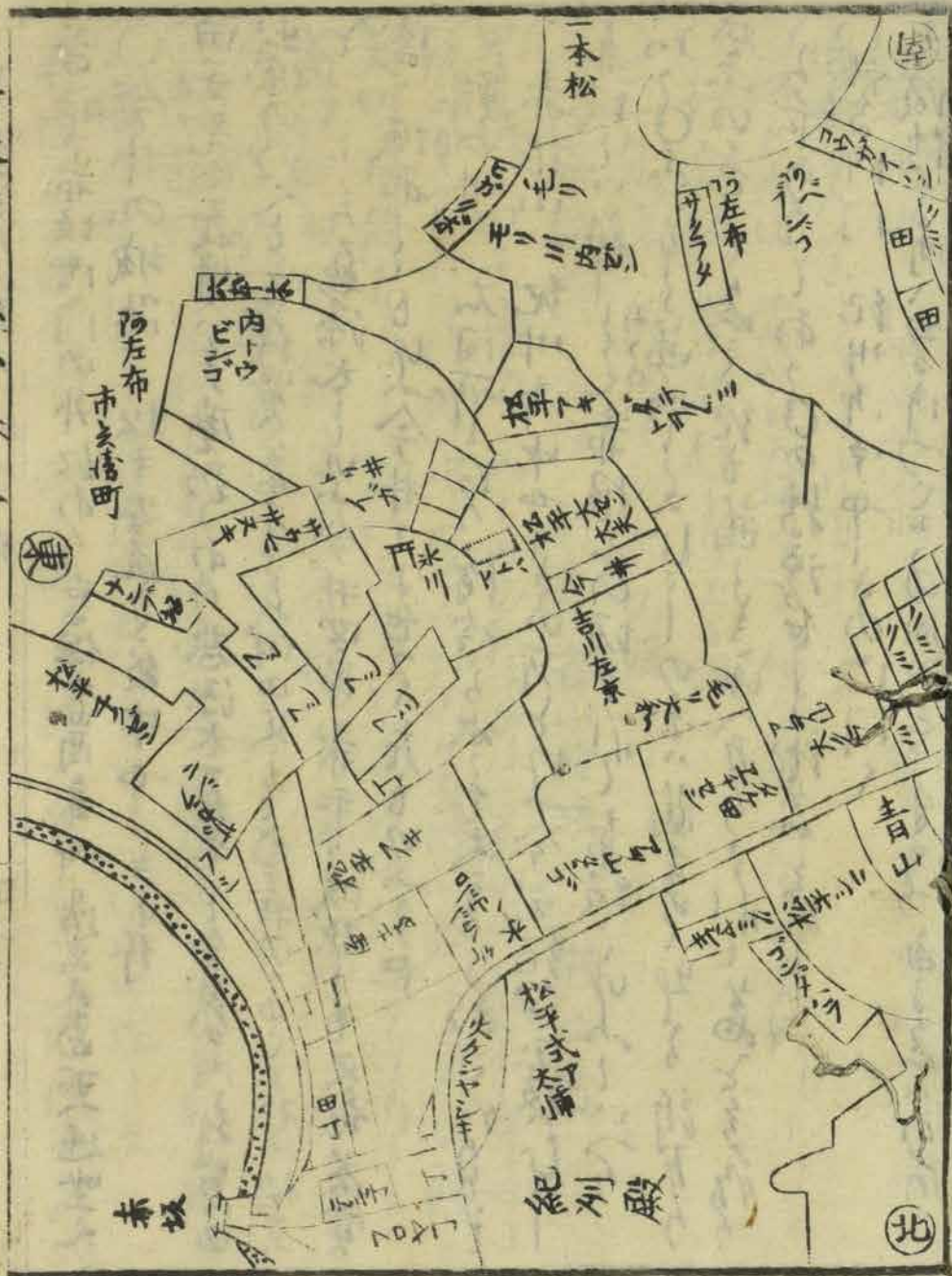
して云ちんりちんり又云赤坂の宮と云いり

やまにありいふ小六の宮といふ又岡東小六といふ

再與せしといふもいり先土俗のあ説りて用かり

たして古呂故園といふ所の名もさきま入すき小六といふ

祭礼六月十五日 隔年々



赤坂
青山
赤坂方角

世田ヶ谷道

赤坂園 冬涉補寫

当社、赤坂中門の外にあり享保十四年所造之又由玉へ遷坐之
○今井の城跡 松平安筑まき後中中まきの所

田子先生義賢、多摩郡あり悪源太我平と名敷の内我賢の出城の跡と云ふ我賢、本常義仲の父とてわが我のまこと我平伯父と討しり悪源太より今井四郎兼平の城跡とも又祐友実盛、城ありしより今井よりせきくたものつらや

○鱧の井 右田所より清冷なる水とて大なるうねきつりしそ

○赤根山 紀州赤中まきの所といふ今云紀伊玉城むし

赤坂といひしは赤根山の坂なりしとて赤坂といふといひ

いふはまもむ山とまじりてのまは苗多し物なる所なり

瓜系の色も多し記も苗まきいなりしとて苗と多し物なり

いふありてありしは轉流せり地名ま

○赤坂中門 紀州赤中まきの所といふ

補

○柴礮坂 松平武勲太浦後中このおより青山へ中門乃

通やげ人のあはれなり比がし

○何太夷坂 右やげん坂のまは何なりと狂氣の老は

○行合坂 今井村より上る坂

○三分坂 種徳のまの坂といふ

○改振稲荷 赤坂 別當 当山終談 願正院

補

里法よ曰天慶のころより社のよりふぶの須稲荷を主女と

行しりしは改振宇賀三社のヨウ神と持ところの跡と

天の降陰なりといは改振は改振社の付家なりといふ

当社四谷仲及所より元禄八年年比比よりいふ

くりしは改振篇もあつてあはれ記さす

○南郡坂 谷町より赤坂へ出る所南郡家中まきおのり

○権太原 じり 権太丸玉行しり人伝の比と云

補

前板太の尻保く 御入園より権太集くより所代友み位

つりつと一回の平多しと名もはる形もさうさうと少人の
つらつとくひあるその後妻母のあつ甲府君の御下や
一は進られ御兩代侍有とのよき、窪町の通と
あつて、南と申すきよせしめ、今もむく北長屋赤
長屋のふあり又そのうち武家申すきと成町家ともなる
御幕下村太氏に代は地は、佐右あり

○青山 青山家の申すきありけし、一向に彼申す死すと
補は北へえ、赤麻生と申す大郷の地へ御入國の後青山因幡を
忠俊は所とねんありて、まゝ申す繩張とさせて屋敷
と形、田と申すおと申す申す、はまひく、青山と
唱ふる青山宿と申す、右繩張のとき、申す、馬
息つきと倒ると別々の申す、申す、申す、申す、申す、
八幡宮の祠と造る、今も申す、申す、申す、申す、申す、
西のくづれありと

○封の井 右田申すきの池よりの水懸りりと空瀬法師
か持り、つらつら、つらつら、つらつら、つらつら、つらつら、
○掃除坂 右田申すきの、つらつら、つらつら、
○死稲高 右田申すきの、つらつら、つらつら、
○龍堤 右田申すきの、つらつら、つらつら、
○百人町 青山の通におよび青山家は、つらつら、つらつら、

補 補 補
○甲賀町 えんせき、赤坂のうら田通とよき、日蓮家のちりり
○圓通寺坂 赤坂のうら田通とよき、日蓮家のちりり

よと一就川は園とすえて旅人としてあつたおめて経基兼刀の
 筭と園と云ふは後日の地なりと云ふ事なり
 基橋といひたりとせしと康平六年三月保元義朝討つ
 旅陳の討つた名と申すは、
 あつたおめては、
 その弁親と院よりとすは親と院は、
 かのもう今今東福ちより又古き物語は白銀長者の
 子根王丸と云ふもの某令の長者娘と云ふもの、
 親と院といひたり、
 経基の故より白金長者の院とす、
 所よあて甲斐組伴俊組へ申すこととすれ、
 携りたり、
 や付たり、

補 補

○五色梅 長者丸と云ふ本主水田下中なる所といふ

け梅白紅のうらよ五色の花と云ふ、
 ○主水町 右に本家の中きに実水の以ね、
 中、
 とも、

補

○供谷重国を教諭 供谷なる所園内、
 きの地、
 ○通明観 大分郡、
 とも、

補

○九段田 長者丸長谷寺の邊、
 ら、

補

○浄土宗

○平河山源照院浄土寺 坊上、
 赤坂、

○開山教養聖公上人 寺中 常照院 雲伯院
 ○苗寺 御城内平河口より文龜二年苗所より

○一行山寺仰寺 坊上末寺丁 ○日取山信教寺 念思、一本

○川勝山清安寺 曰 曰 ○信康山法泉寺 曰 曰

○法性山音字寺 曰 今井 ○寂照山三徳寺 曰 青山

○長青山宝樹寺梅窓院 念思末 青山

同山般若智因師 寛永年中起立

本寺阿弥陀 聖徳太子の作三社告あり彫刻は三社の作と云

△泰平觀音 三國傳來の像彫れ我が朝に曰我家胡僧の古

佛なり陳中の瑞強を修くリハ傳記あり今以青瑠

多ク 雜唐或元魏の老石と稱するも其の老くあり

△櫻地蔵 慈覺大師の作 吹巻唯然和尚墓中に感得あり

ヨ方狹多一 △羅漢堂 釈迦十六羅漢の像二十五の平ら

△百済稻荷 享保のけりぬ大和公面儀より縁山へ下迄の傍に

流して地を稲舎に結中ありしや、庭生と傳せんことありて

一は造るあり、庭人法形といのまは強う一初若白狐のトリ

巡請の民形あり又ありてま全稲舎をあらわして白く

拾得 十ニ世峰登り上人のありて苗木と拾ひてく桂

とくく大木となりたりはくひりき枝されさうと

△惣門 長音山の額黄葉悦山律師の字に 青山

○南命山善光寺 信州善光寺の宿寺 青山

本寺 中將形秘伝に中將形の藤名号 寺从五石

高寺に谷中ありり此を今も善光寺と稱する山に氷のころ

○禪宗

○靈鳳山種徳寺 大徳寺末 赤坂

同山善光智灯律師 坊院 松蔭院 栢樹院

△医王水 坊内にありて善光寺

○法徳山松泉寺 妙心末 赤坂 ○万運山陽泉寺 保善寺、今井

○稻荷山田通院 曰 ○花岳山法音寺 泉岳寺、曰

稻荷坂 稻荷の中あり ○法皇山大宗寺 甲州 大宗寺 日

○王定寺 青松 青山 ○鬘山青原寺 代後寺 青山

○微妙山実相寺 月桂寺 日 ○龍谷寺 金子 産田寺 日

○青山海藏寺 芝蘇 日

開山宝洲和尚 中奥密山和尚 唐板一切経当寺より出

○普陀山長谷寺 曹洞宗林 大中寺末 かしの橋

開山門菴宗国和尚

本寺観音 和州長谷のうへへ縁二丈六尺所首長谷と

同作 当寺もと 湯比の上よりあり 天正十二年当所を移

けり △小松原稻荷の社 あり

境内三万坪余あり △古杉老松梢とついで 橋右の茂林

より大門より中へは三町はり 在末より △当寺より 根より一尺あり上

坂より景色より △当寺より 右佛教百餘あり悉

く △当寺より 古佛教百餘あり悉

作 △当寺より 古佛教百餘あり悉

当寺より △当寺より 古佛教百餘あり悉

○法花宗

○佛智山通寺 玉沢末 赤坂

○清氷山常玄寺 斐伊末 日

○杉寿山梅嶺寺 なかも 青山

○一向宗

○専福寺 西 日

○清涼山免永寺 日

○徳雲寺 日

○今井山妙福寺 日

○妙祐寺 日

○天台宗

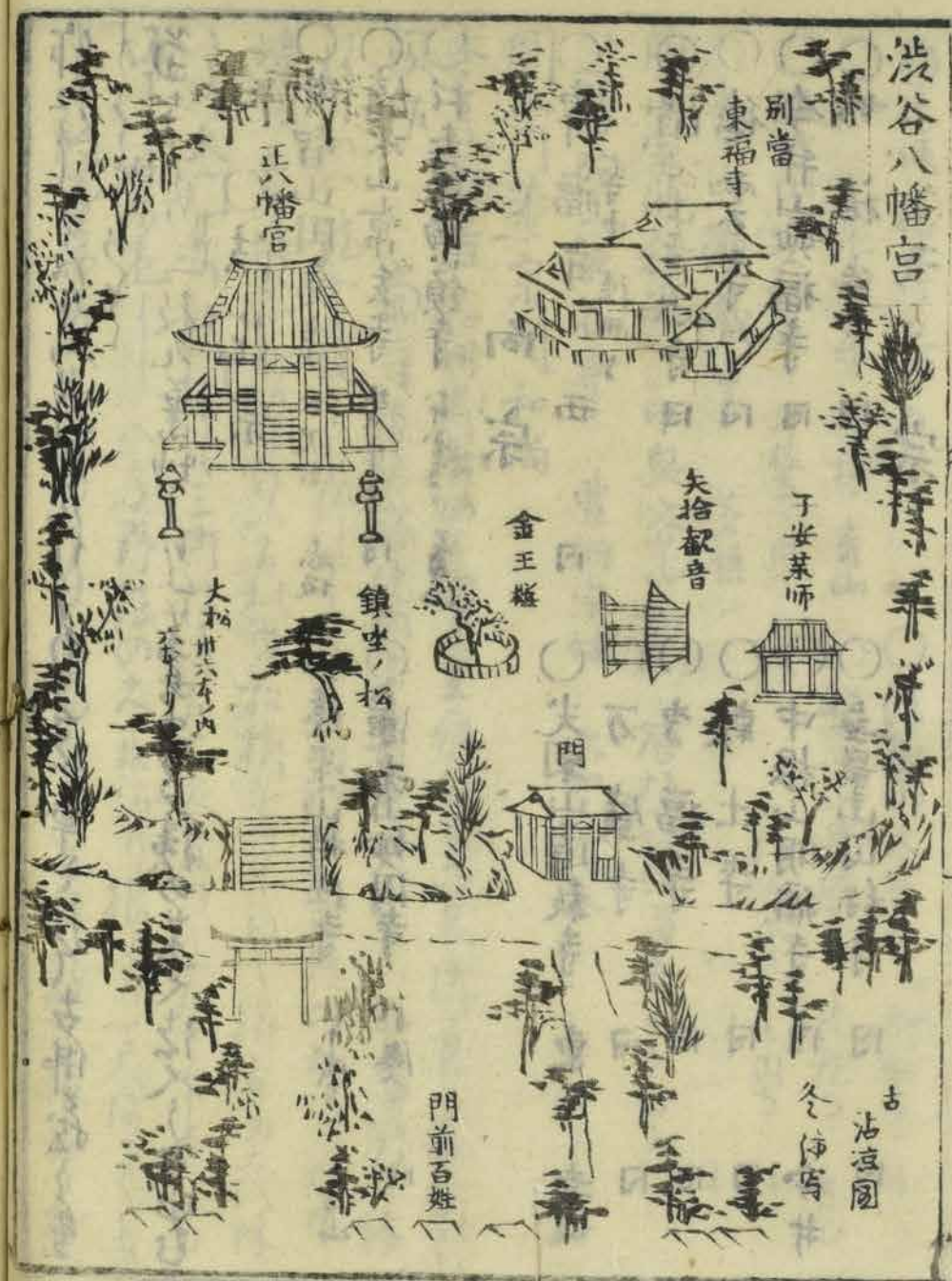
○尖罫山道教寺 東 赤坂

○万廣寺 日

○報土寺 日

○中根山明福寺 日 今井

○壹量山四称寺 日



渋谷八幡宮

別當

東福寺

于安葉師

夫捨飯音

金玉樓

鎮坐ノ松

大松 卅六ノ内

門前百姓

古 沾道園

冬侍寫

○竹園山教覺院

賦琳寺

青山

△心見觀音 弘法太子の作 名有り糸ありあり

○渋谷八幡宮

渋谷

別當渋谷山東福寺

康平六年村岡五郎良文の孫川崎土佐と基家と清水八幡
之助清の嫡子平三重家金玉丸と代と法もとに金玉丸より
村岡とありし渋谷と氏とすむく大社として美盛庄七郷
の産土神と所謂七郷ハ 渋谷代々木 赤坂 飯倉 麻布
一本 今井 おし青山ハ渋谷の西にあり今 夫盛ハ渋谷也

開山因法師正和元年寂百十一歳

△正八幡神誕ハ 弘法の作 應神帝のる容也

△月輪の御旗 神正躰といふ丈拜するありあり

所獲ハ長元五年源頼信千葉忠常退治のほれして八旗の旗
窪園(を納り)日月二旗村岡氏基と給られ義了我家奥州征伐
の時に二旗とすく月の旗ハ苗所よりいふ八幡とす崇徳天皇の御也

△子安某師 行基の作 源我朝のち伝
△矢拾録音 唐仏 崇谷合皇丸寺伝

△金王丸の像 藏衣ニカと帯自伝より 金王合到振又明の
再述より推名と金王と云是上下の文字と平治元十二月崇谷冠共
崇帝と号 保元乱の後遺世を死せよ

○金王梅 境内にあり じいし 憂忘梅といふ

久壽年中源義朝陽全龜谷の鎮は梅は小憂忘梅と令
玉凡に給ふ仍比崇谷よむきり 法主、懐ふづきのかより梅
文明の古る黃令も若くいあり 崇谷氏の末葉と疫病の難あ
る神託ありてい蓋木の嘉物とて病癒とのる 今よむて梅あり
案一本 紀列養珠院殿はさるゝの實と所應ふせせ給ふすち
てやしく花もさけるころ崇谷のささる 梅よりけりきありあされ
所内の士崇谷善入より人合王丸の子孫なるよりこれ試る
て今そのえ木のささる 梅を本林也といふ

の本あり 餘人の梅はるんより子孫の梅はるんよハ史祖への孝
よしりりりとして梅と綿入教しりいつきけりゆるは
今のかさるるをわりお木の終りるをさるる 記市はるいことと
△法座の松 境内にあり 大永四年正月十三日小條氏綱と上杉躬
興より梅のありてたり 府氏保の後陳大乃ち高三乗小枝とありり
隈谷(せめ)入教史を例よき像に松のりよすまりまをいかり
くくを身は松のむけ古ハ三十の株の株本なりしを 其は境内
よハ株あり 境内の武士申しきよも二三株ありしと
○詠せ、他 八幡より西合王丸延りあて
○合王丸城跡 これハ八幡の西なる彌的場の形勢北のがしら
今よりあり古井多し 法皇代一の城地といふ

○河内 庄司次郎館 これハ八幡の西の堀の内といふありあり
いりハ大塚の地ありといふは庄司次郎ハ遠流のよりりてら
河の川跡へ引けおよさの社のあり是も其時川とと給行社也

○姉尾平次左馬光景館 おかしきことこれに築地たる場なり
かゝるのころ光景はひやひや小池あり早殿は酒を蘇麻
あられす岩間ととりて清冷の湯水こころは約つなき
板ありひびきのの音遠くも毛とつがはれて水とくひりし

○甘露水 かんろすい かんろすい 天保二年六孫王經基御在りし
信常わがしつは水とく味あつし甘露とやひありし

補 ○日圓山妙法寺 法花宗 池上末 堀内

開山妙仙院日圓上人

日蓮上人像 日法上人作 日蓮上人房外ありて日蓮上人
向くは湯と水を以てて是はあり流し流し日蓮上人と
も今師の像と彫刻し又師の髻髪とたくは師と髻髪
は像の髻髪は四十二歳の髻髪なりしなりと碑文谷に
ありしとて諸病に罹りて文平快とてもの多くは諸道
兼日蓮上人像て無名目とて千部修持中ハ討群とせし

○玉池 たまらち 玉池といふは天文の原平頼朝に河水流るる

は井涌沸すはあつたきあり二婦あり汲は釣瓶ひひつ
玉とるなりがら練のし玉糍との器に流す是ハ幡文の神
けり大永の兵火と深ては井よりすこやに神祠よぶこひ
しは宝珠今もあ福寺ありそれよりこれと玉の井
といひしとて玉池といひし所の小名なり

○乍候の塚 一名去我苦塚 百人町の邊田村下総ち後中や
きの内あり合玉丸との足乃塚といひ方二十間ある
これより二三里間あるに遠く富士荒波房
総の山と眺るありあり憂悲苦悩を去するて是
は乍候塚のたぐひ府中むこい建ちてありし
このまより府中野火留のまよりまて一向の原野をゆり
と秋のけてそなきしとて月の入き山もなり形と承
きしるるまはる大蛇ありてありは塚と築て信人の乃

補

よまゝにさしんふめしとせしむる一とせ府中へしきりし
 の地も富士足塚佛の感何塚をしりひ五ヶ所きて
 一彼不二足塚といふ乃りて入り眼下一尺のふまをく
 一引くつきき原向の園をさきぐみのまゝ入えてき
 玉川常のまゝに塚ありありありあきて不二足塚ありきと見え
 たりとの塚さきき三丈ほりのぐうの園五ヶ所ありきと見え
 今全五ヶ所の不二足塚は方二十間といふ甚方と見え
 不二足塚佛の感何の敷をきりぬ

○古道 後倉の代の街乃として右の塚入りたるのたより
 ○神仙水 八幡の西むし空神仙人は谷よきとて不老長

生の仙菜とゆいりしと云ふ水は所と神仙谷といふ
 ○針山 右のまよりうき道他のはひよ花ありと云

○新巻の滝 渋谷むし一里は渋谷宗光と云ふ長老あり
 子娘といふ女もそり容貌すれり英のとり田院寺の樓と

誦むとて父母いさむの彼さよ新巻と云ふ塚あり娘と云ふ
 といふありありげすけはつがよとと捨りといふ

○順山 右のまよりうき道他のはひよ花ありと云
 そのひりりのし系院寺の田院あり

○羽沢 ○羽沢 渋谷の内建久二年新羽つ乃個
 秀はあまの葉とくよ因之月は卯と云ふとて新羽と云
 その雛けりて羽つろとて現沢と云ふ今も新羽といふ
 のあそひ遊園といふとて新羽谷といふ

○渋谷川 右の三間はくりの小川也

○氷川社 渋谷川より天台山王末 惠日山宝泉寺某王院

○道玄坂 渋谷より世田谷谷はり乃い坂とて上目よよ

乃そちといふ寺あり乃そ氏大和田し和田義盛一族と建曆三
 年九月叛逆ありて和田の一族七よの残者は所の岩窟にかく
 ま山賊といふその名と呼ぶと云ふ

補 補

○庚申橋 沼谷川よかり

○瑞泉山祥雲寺 禪宗 大徳寺末

塔瓦 妙善山東江寺 景徳院 隆興院 春霄院

天桂院

奥常房

香林房

梅玄房

沼谷

當寺ハ松平汎前々後開基ニ黒田甲斐守長政のほろ祥雲寺
及よりいふと赤坂のやまきの内より後よ外よりして中
きの後よりいふとその後麻布市ニ断テいふ今より官所
より板よりいふたの町家よりいふ今より至るぐの代よりいふ
寺の持よりいふ後又當所よりいふ

世ハ平尾の祥雲寺よりいふその地麻布平尾より追々いふ
いひつゝいふ

補

○沼谷山福昌寺 下谷 日出 〇 豊後山観音寺 妙々、口

補

○禅河山東北寺 妙々、下沼谷

補

○源秀山室泉寺 志言律 泉州津原寺末 下沼谷

ひまひき

○馬牽沢 これハ世田々いふ

文治四年源頼朝々奥州春衡征伐の時沼谷八幡は春衡宛あり
存存中よりいふ條々毛のる強々々林々々ハ幡々々社々々
ひる其之例とるりき沼谷よりいふのいふいふをいふいふ
其の社々々々

補

○孫の神社 同本あり

子の神社よりいふ子の社々々々前々よりいふ子の社々々々
其師ナニ社の中の子の社とまらつるものあり又北方よりいふ
てを武社の名よりいふいふいふいふいふいふいふいふ
つるありいふいふ孫の社よりいふいふいふいふいふ

○常盤橋 せうわの入口小みそいふいふいふいふいふいふ

しーまの良氏の妻よときは中野よりいふ密通の事いふいふ
ては不いふいふ害せいふいふいふいふいふいふいふいふ
夜の必まらいふいふ里人いふいふ智徳あるいふいふいふ

そのまゝやゝあつて今瘡や少しものほ穢はいれりてたまふを
摺のかゝりも供すれどもちまらぬ

○世田谷 荏原郡に江戸より三里

吉良正忠十五万石の村の城下と世田谷の冲所と云ひ

○九品佛 九品山唯在念佛院淨真寺 世田谷奥沢村

名田吉良氏の城地なりと云 墨隍の田舎あり

開山起誓上人珂碩和尚 延宝六年起立

九品佛一軀くまゝに日光の中は小佛一千十二軀九品乃小

佛一凡一万百十軀あり 各坐像丈六 釈迦の像後光の中

の小佛一千十二軀との金佛九三万二千軀く

珂碩和尚は武州の人姓、野村氏なり元和四年正月朔日

生十八歳より生実の大巖者に入て隨流上人乃門下

阿山師のま子となり寛永十三年阿山和尚を巖寺に

入院し其後教す二世なり四州阿碩をさうひくヨウ者

入つては江東の海濱よりつゝ阿碩は密に土本乃

子とけりきとてしりし日は心力を旁に當方丈

けりし門下は一期年より功を成其徳終世と云

まろ可と師一日は二銭とたゞ造佛の費よりえつ

寛文四年丈六の一軀を成能と曰七年上中下品の

九品大をく充せり別は釈迦は丈六の像とつゝ

く墨岩の比よりけり一はせ佛のた

めは像ありと云中より一は阿碩の

裁別よりこれと云く釈迦と云い

切なりと云く佛像のそのおかし

延宝六年奥沢の御民の拓はるこの地は

師六十一歳は比代との岡をぬく

比と其後九品の像と云者寺より

其よりこれより九品は比代の名と云

手次正守書

延宝八庚申八月大風吹りて草堂轉倒了以傍や毀つひり
師又之れと修補と 元禄七年十月七日入寂

毎年四月二日より十日迄淨陀經千部修終多倍多りし
前後の如ししき九品のなりとありし地の名はすしら法行り

地名は奥平のて信ま九品佛とありしなり

○大溪山豪徳寺 禪宗 在系勢世田ヶ谷

開山馬堂昌善禪師 中興同解芦園禪師

再中興大極秀道禪師 文明十二庚子年豪徳院軍

基二八一吉良凶患の伯母て別當寺よ墓二あり

四之卷軸

八冊

